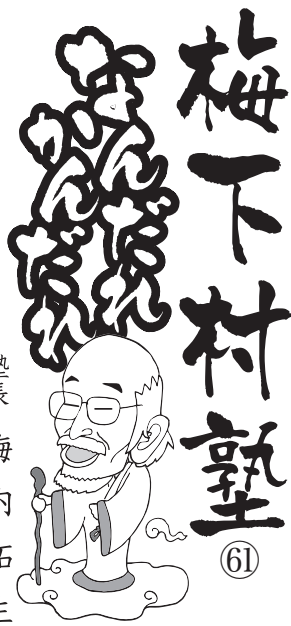


# 「森と水と命の惑星」国際会議

## ～地域と世界の心と魂を詠む～



塾長 梅内 拓生

### (雨と砂嵐)

北アフリカのアルジエリアで起きたテロと人質の殺戮のニュースは胸を痛めるものである。日本の天然ガスプラント会社で働いている日本人を含む数十人がテロリストに拉致されており、日本人に関しては既に10名の死亡が確認されている。

水に恵まれた砂漠のオアシスは別として、私の少ない経験からも、熱砂の砂漠生活は厳しいものである。ましてや、都市から1000km以上も離れた砂漠の真ただ中にある、プラントでの労働は厳しいものであることはよくわかる。雨の多い日本の生活文化とは異なる砂嵐に見舞われる中の生活である。日本の唱歌に「月の砂漠をはるばると旅のラクダが行きました」というロマンチックな歌、これは激変する

昼と夜の砂漠の気候条件のなかの静かな美しい砂漠のひとつの情景を詠んだものです。北アフリカや中東の砂漠の現実はこちらとは大きく異なっておりまして。石油、天然ガスなどの地下資源が豊富に埋蔵されている砂漠は、経済と政治と軍事、そして宗教を巻き込んだ欲望の争いが起こっております。

地下資源 世界は争い血と命  
 (詠み人知らず)  
 砂嵐 過ぎて砂漠に月のぼる  
 (詠み人知らず)  
 (雨と一中祭)  
 大雨の 降る中響く合唱の みんなの声はどきまでもつゝハ  
 (中・1男子)  
 秋雨に 消されぬ言葉輝いて  
 (中2・女子)  
 秋雨に 打たれ負けず

と 一中生

(中3・男子)  
 雨の世界と砂漠の世界は異なります。雨の世界の情緒がすなおに詠まれております。

### (文化交流と会話)

敬虔な 祈りやコーラン 朝の空  
 (詠み人知らず)  
 托鉢の 坊主にお布施 朝の空  
 (詠み人知らず)

海外在住の人々の詠作品であります。海外に住むといろいろな方々と話し合い、いろいろな文化に出合います。

(詠み人知らず)

(雨を忘れて合唱)  
 歌声に 想いをのせて響かせて  
 (中1・女子)  
 歌声と 希望が一緒に響き合う  
 (中1・男子)  
 合唱で 心つながる文化祭  
 (中2・女子)  
 楽しいな みんなで歌う文化祭  
 (中2・男子)  
 声響き 心震えた文化祭

(中3・女子)  
 今までに一番響いたハーモニ

(中3・男子)

外は大雨、その雨を気にかけて、合唱の世界に入っていく。合唱チームの他のメンバーの声と心に調和していくこと、この経験は将来、世界に出て、異なる国の異なる文化の人々と一緒に仕事や生活をするうえで極めて大切になります。

言葉の激しい文化、恨みの強い文化、自己の論理を押しつける文化、相手を見下す文化、世界にはいろいろな文化があります。この文化の違いを乗り越えて交流し、コミュニケーションを行うには理性と同時に情が欠かせない「心」の文化が大切です。長い歴史を持つ気仙の文化から、これを掘り起こし、育てていくことを目指そうではありませんか。

### (古語の掘り起こし)

1月16日第一面の世迷言では気仙で話されている古語との関係について述べております。「とぜんだ」という言葉は「徒然草」の「徒

然」からきていると言っております。「徒然草」のなかの「花は盛りには月は隈なきものを見るものかは…」は目先の利益追求に追われている、現代世界文化がもういちど、とらえなおす価値があるものの方です。先端(うらっこ)の話も出ておりました。これも、「徒然草」の高名な木のぼりの名人の話とつなぐとボーイング社の先端技術の粋を集めて創ったジャンボ機のバッテリーを含むシステム全体に問題がありそうだとのようです。

日本の武道の「道」には豊かな精神文化があります。「柔よく剛を制す」という言葉は、小国が世界の大国と共存するための精神的バックボーンとそれによる自立の道の構築につながるものになると思います。「腰だめ」、「言挙げしない」、国々はいろんな知恵の言葉を持っております。異なる文化や国がそれぞれの歴史から学んだ知恵を交流し、コミュニケーションし、理解し合うことを目指す、古語の掘り起こしが、そのひとつであると思います。